

## 5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和3年度高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	学力伸長は日々の授業にあることを学校全体で共有し、生徒の実態に即した学習活動となるよう検討を推進する。幅広い学力層に対応した作問・評価方法を工夫し、応用力の育成と基礎事項の定着をはかる。 面接週間以外にも時期を逃さず面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。
現 状	与えられた課題にはまじめに取り組めるが、学習活動自体が目的となっていることに無自覚な生徒が多い。将来を見据えて必要な事柄を選び取る主体的な姿勢の育成が急務である。 また進路選択に際しては、自己の適性・能力をしっかりと認識できず、最終的には合格を第一として進路を考えがちである。
達成目標	(1) 個々の学習状況を踏まえた進路意識高揚のための面接指導を、各学年6回以上 (2) アンケート調査による学習活動への満足度80%以上
方 策	(1) 学期初めの面接週間に加え、生徒個々の現状に応じて随時面接指導にあたり、平日の家庭学習を、1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間を下限として確保できるよう支援する。 (2) 授業の予習・復習がおろそかにならないよう、学年と教科が連携を図り、自学課題の分量とレベルに配慮する。習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮する。 (3) 主体的な取り組みを促す評価方法を探究する。作問のあり方について、教科内で検討会を持ち、また結果を踏まえて総括を行う。 (4) 2期末にアンケートを行い、達成度を検証する。
達成度	・面接指導は、学期当初の面接週間と学期末を中心に丁寧に行われており、生徒アンケートの結果にも、ほとんどの生徒が満足していることがわかる。 ・学習活動への満足度は高く、目標は達成できている。
具体的取り組み状況	(1) 学年ごとの実情に応じた面接がなされている。1・2学年では学習時間の把握にFormsを用いて、把握に努め、素早い対応ができた。 (2) アンケートの結果から、日頃の授業を大切にする意識や、自学課題の主体的取り組みが浸透しつつある様子がうかがわれた。学年との連携については、十分に取れたとは言いがたい。模試結果やスタディサポートの分析などを通じて、方向性をアドバイスしていきたい。 (3) 主体的な取り組みを促す作問のあり方については、深い取り組みはできなかった。 (4) 2学期末もアンケートを、保護者、生徒両方で実施した。今回より生徒・保護者ともWeb上で回答してもらうようにしたが、保護者の協力が思いのほか少なかった。来年度への課題としたい。
評 価	A 主体的な取り組みを促す作問のあり方以外は、ほぼ達成できた。この項目については、学校課題小委員会で多くの教職員と問題意識を共有することができ、次年度につながるものと考えている。
学校関係者の意見	丁寧な面接指導がよい結果つながっていると考えます。引き続き、学習状況を踏まえた面接指導を行い生徒の主体的な学習につながるような取り組みを期待します。
次年度へ向けての課題	学力判定ツールとして、新たに1・2年3学期のスタディサポート、駿台 atama+を年3回実施する。より詳細に学力の現状を把握することで、生徒の希望に添った進路実現を支援できるよう、活用していきたい。

( )評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点項目	学校生活	
重点課題	(1) 自主自律の精神に満ちた品格ある生徒集団の形成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着	
現 状	(1) 挨拶の励行、時間厳守、身だしなみの価値を心から意識して実践できる生徒は、まだ少ない。 (2) 感染症予防の意義も踏まえ、食習慣だけでなく、食事内容や生活習慣に改善すべきところがある。	
達成目標	(1) 生徒会を中心に「生徒会ルール規則」を見直し実践する。 (2) 3食を基本に生活のリズムを整え、健康的な生活の質を高める意識を育てる。	
方 策	(1) ①外部講師から着こなしやマナー、現代社会問題について指導していく機会を設け、生徒自身に生活について考えさせる。 ②部会の定例化、学年との連携を密にすることで学校生活の問題点や情報を共有しながら、生徒が主体的な学校生活を送ることができるように支援する。 ③生徒が主体的に校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、生徒会執行部や校紀委員会を中心に学校生活のさらなる充実につながる活動を行う。 (2) 朝食を始めとした食習慣の実態を把握し、食事の重要性を理解するとともに、免疫力の向上につながるような食事や生活習慣を考えさせる。	
達成度	(1) 生徒会中心に「生徒会ルール」を見直し実践する。(90%) (2) 1学年では朝食の実態を調査し、管理栄養士から食習慣や栄養について話しを聞き、理解を深める。「毎日朝食をとっている」の割合 (90.4%)	
具体的な取り組み状況	(1) ・本校の生徒心得について内容が必要かつ合理的な範囲内で制定されているか研修会を実施。(生徒会執行部、校紀委員会、PTA生活指導専部会、学校課題小委員会) ・外部講師を招聘し「マナーセンスアップ教室」を実施(マナーについての意義、社会人としてのあり方を学ぶ) (2) ・1年生は入学時オリエンテーションにおいて、朝食の重要性、習慣の意義について話しをする。11月には保健の学年統一ホームルームにおいて、管理栄養士から朝食アンケートの実態調査をもとに、朝食だけでなく1日の食生活も含めて、食習慣や栄養に関する話しを聞き、免疫力を高める食事について指導を受ける。	
評 価	A	新年度より「生徒会行動指針」を全校生徒に共通理解を図り実施予定である。
学校関係者の意見	「生徒会のルール」の見直しを、生徒会を中心に学校・PTAと取り組み、次年度の「行動指針」として実施することは自主自律の精神に満ちた品格ある生徒集団の形成に大切なことです。	
次年度へ向けての課題	(1) 南高校生らしい品格の概念の共有。生徒相互間のふれあいを深め、共生の心や人として望ましい品格の陶冶に努める。 (2) 高校生活を営む上で食はすべての根本である。健康な生活を送り、免疫力を高めるためにも、引き続き朝食はもとより、食習慣の維持と栄養の理解を深めることに努める。	

( ) 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった

重点項目	学校の活性化	
重点課題	(1) 行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進	
現 状	(1) 昨年に引き続き学校行事・部活動が制約を受けるなかで、学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 自主学習の場として利用している生徒もいる。図書の貸出し数は少しずつ増えてきている。 (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。	
達成目標	(1) 学校生活を意義あるものにするために、一人でも多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できた生徒が80%以上。 (2) 生徒の図書の貸出数が、一人につき年2冊以上になることを目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間1回以上参加する。	
方 策	(1) 生徒一人ひとりに対し、今年度の状況が、創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると、ポジティブにとらえさせる。そのために、様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 (2) ・学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。広報活動に力を入れる。 ・図書館から朝読書用の書籍を選ばせる。(1年オリエンテーション時) ・探究的活動で書籍を活用させる。 ・POPカードや図書日より、校内掲示板など、広報に力を入れる。 (3) ホームルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。	
達成度	(1) 6月に体育大会、10月に南高祭をいずれも非公開で実施した。それぞれの行事で生徒がアイデアを出し合い、新しい形の体育大会・南高祭を目指して準備を進めた。 (事後、達成感を得た生徒 体育大会 78% 南高祭 94%) (2) 2月2日現在で総貸出数は1,309冊(1人あたり 2.4冊) (3) 2学期までの間に1～3学年計5クラスがホームルームの時間に戸出地域のボランティア活動を実施した。また、部活動においても野球部・新聞部も独自にボランティア活動を行い、合計約200名の生徒が参加した。	
具体的な取り組み状況	(1) 体育大会では準備の段階で感染症対策に配慮してきたが、副産物として生徒の考案による新競技が複数誕生した。南高祭では実施時期の変更や工事による使用場所の制限などがあったが、このことがかえって生徒が企画段階でより多くのアイデアを出し合う余地が生まれた。 (2) ・ブックフェアの実施(貸出冊数無制限 貸出期間延長 芸術鑑賞会特集など) ・掲示板による広報活動(被服室前) ・授業での書籍活用(総合など) (3) 後期ホームルーム計画の立案の段階で、ボランティア活動の実施を推奨し、計画に取り入れていただいた。	
評 価	A	昨年に引き続いて学校活動において様々な制約を受ける中、生徒ひとりひとりが置かれている状況を理解しながら主体的に行動しようとする姿勢が見られた。
学校関係者の意見	学校生活がコロナ禍の制約を受けるなか、体育大会では、競技種目や内容も生徒自身がアイデアを出し実施されたことは評価されます。それらが、広報紙で各自治会に回覧され、地域住民が親近感を抱いています。	
次年度へ向けての課題	(1) 今年度も行事の計画にあたり、感染症拡大の影響を受けた。生徒にとって主体的行動の意義と前例に囚われない自由な発想を学んだ1年であった。一方、中止や大幅な変更を余儀なくされた行事については、伝統をいかに継承していくかという課題も残った。 (2) 読書に触れる機会をさらに増やし、教養の涵養に努めたい。	

( )評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった

重点項目	「SOUTH探究プロジェクト」の充実と授業力の向上
重点課題	<p>(1) 「SOUTH探究プロジェクト(旧キャリアデザイン・プロジェクトS)」を充実発展させ、「学びに向かう姿勢」を涵養し「学ぶことの意義」「学ぶことの価値」を見いださせる中で、自立する際に必要となる思考力・判断力・表現力や価値観について活動を通して身につけさせるとともに進路目標を明確にする。</p> <p>(2) 新教育課程の実施に向けての授業改善を行う。</p>
現 状	<p>(1) SOUTH探究プロジェクトでは、自らの生き方・在り方を考え、将来への展望を抱かせ高き目標を持たせるような授業を展開している。探究的な活動においては1学年で地域課題をテーマに探究の手法を学ばせており、2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待される。加えて学びに向かう姿勢や高きを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編し伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。</p> <p>(2) 互見授業などを活用し、各教科・学年の授業を参観する機会が増えてきたが、新教育課程の実施に向け互いに学び合う場を増やしたり、ICT機器を用いた教育を推進したりとさらに工夫する余地がある。</p>
達成目標	<p>(1) SOUTH探究プロジェクトを通じて、</p> <p>①1学年は、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上</p> <p>②2学年は、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合80%</p> <p>(2) 互見授業の参観を2回以上実施する。教科別授業研究会を開催し、新教育課程で3年間を見通した指導法を築き、指導目標を共有する。</p>
方 策	<p>(1) 主に総合的な探究の時間を活用して実施する。</p> <p>①1学年ではまず「学びに向かう姿勢」を指導する。キャリア教育を実施し、学ぶこと・働くこと・生きることなど自分の生き方や在り方について考える。地域課題をテーマにして課題の設定・情報活用能力・表現力など探究の手法を身につけさせる。</p> <p>②2学年では高大連携により、探究的な活動(大学連携講座)を行う。1学年で学んだことを発展させ、仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。後半ではキャリアプランニングにより高き進路目標を持たせ挑戦する姿勢を身につけさせる。</p> <p>③プロジェクトの評価と改善を行い、系統的に再編する取り組みを行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。</p> <p>(2) 授業力の向上</p> <p>①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。互見授業では生徒がタブレット端末を用いた授業を行うこととする。</p> <p>②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。</p> <p>③互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法を築き指導目標を共有するなどカリキュラム・マネジメントを行う。</p>
達成度	<p>(1) SOUTH探究プロジェクトを通じて、</p> <p>(1学年) 進路目標が明確になった生徒の割合 98%</p> <p>(2学年) 探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 97%</p> <p>(2) 互研授業参観回数 4.1回/人</p>
具体的な取り組み状況	<p>(1) SOUTH探究プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年:「キャリアデザイン・ゼミナール」講演会を3回実施し、実社会の姿を知ることで働くことの意味を理解させ、学問をすることの意味に気づかせ、将来への大きな志をもって意欲的に学び活動するように導いた。また、講師の選定にあたってはPTAキャリア教育推進委員会を設置し協力を得た。10月に「大学連携講座Ⅰ」を開催し、近隣の大学から講師を招聘し学びに向かう力を育成した。12月から「探究的な活動Ⅰ」にて地域での課題を見いだすアイデア提案型の探究的な活動を実施し、問題解決的な活動を繰り返し行う中で探究の手法を学んだ。</li> <li>・2学年:「探究的な活動Ⅱ」(大学連携講座Ⅱ)では富山大学と連携し講師による指導・助言のもと探究活動を行った。5月の富山大学訪問(アカデミック・インターンシップ)をはじめ</li> </ul>

	<p>めとして活動報告会や発表会を昨年度より2回多く5回実施した。活動内容を工夫し、探究の手法の獲得のみならず学問への誘い、更に視野を広げて進路を考えることができるようにした。</p> <p>(2) 他教科の授業の参観も見られた。また、ICT機器を用いた授業・デジタル教科書を用いた授業が積極的に行われ、特に9月からのリモート授業には殆どの教員が携わった。互見授業は1月まで実施期間を延ばしたこともあり、参観回数も増加した。</p>	
評価	A	<p>・活動が制約された中ではあるが、熱心に活動に主体性を以て取り組む姿が見られ、課題設定力、情報活用能力、表現力を身につけることができた。</p>
学校関係者の意見	<p>生徒が自らの生き方・在り方を考えることは大切です。SOUTH 探究プロジェクトが、PTA・卒業者をはじめ地域の方々、地元大学の協力のもとに一層推進されるように願っています。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>・新課程導入に伴い、正解を探すのではなく、批判的に思考したり、課題を発見して仮説を立て試行錯誤したりする能力が求められている。1学年の総合的な探究の時間では企業（フィールドスタディ）や地域との連携による地域課題探究となり「探究的な活動Ⅰ」を更に発展させる予定である。Society5.0の時代を踏まえ、2学年では大学連携を柱に、探究的な活動を学問分野に発展させることで、思考力・表現力のさらなる伸長が期待されている。また科学的にデータを見て判断していく「データサイエンス」の導入も必要とされている。好奇心を持って、教科横断的な学びを育みたいと考えている。</p>	

( )評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	ICT推進事業	
重点課題	(1) 教育クラウド、1人1台タブレットを利用した授業、会議等の推進 (2) 情報セキュリティの改善	
現 状	(1) 教育クラウドを昨年度から導入し、ソフトウェア、ハードウェアの環境整備を行ってきた。さらに利活用が進むように、事業の推進にあたる必要がある。 (2) 個人情報等の管理情報（紙ベース、デジタル）の把握、整理、破棄などについて、教職員間で情報セキュリティに関する研修が必要である。	
達成目標	教育クラウドを利用した教育活動の推進工程の達成 10工程以上	
方 策	推進工程 ①ドメイン取得等初期設定 ②ガイドラインに沿った教育クラウド整備 ③1人1台タブレットの初期設定と配備に関する研究 ④個人情報等の管理すべき情報のリスト作成 ⑤整理ロッカー、袖机・ケース等の整備、職員室のゾーン設定 ⑥desknet's 設定変更による改善と利便性の向上 ⑦管理者の育成 ⑧Office365 教育クラウド利用、Teams、Forms に関する研修 ⑨1人1台タブレットを活用した授業に関する研究 ⑩教育クラウドを利用した授業改善・工夫に関する研修 ⑪情報セキュリティ研修 ⑫生徒の意識調査 ⑬教員の意識調査 ⑭教育クラウド導入・整備、情報セキュリティに関する視察の受け入れ ⑮次年度計画	
達成度	達成できた工程 ① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑭ ⑮	
具体的な取り組み状況	①～⑤については、年度当初を中心に設定が完了した。 研修に関しては、⑧、⑩について実施済みである。⑪セキュリティ研修については、必須研修と考えており、年度末にかけて、短時間となることも考えられるが、実施していきたい。 ⑨1人1台タブレットを活用した授業に関する研究に関しては、各先生方で様々に使っていており、現在、導入過程も含めて、ICT 関連論文にまとめている。	
評 価	A	
学校関係者の意見	タブレットを活用し、効果的な教育や効率の良い学習活動をさらに推進し、生徒の学力向上に努めてください。そして、ICTの先進校として、この実績をICT関連論文にまとめるなどにより、他の教育機関のリーダーとなるべきです。	
次年度へ向けての課題	次年度は、デジタル教科書が本格的に導入される年度となる。特に新1年生においては、初期設定のほか、教科書や参考書のインストールも必要となるなど、計画的な取り組み、クラウドサービスと統合的な運用が課題となる。	

( )評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった